

überhaupt)・精神 (Geist)・實存 (Existenz) 等の諸様態を包含する。さうして實存が「包括者のあらゆる様態の Besetzung であり Boden」である」限りに於て、カントの「私は何を望み得るかが宗教の問題と關聯した如く、實存も當然超越者との關係を問題にせざるを得ない。何故なら、超越者は、人間がそれによつて自由を與へられる處のものであり、又、超越者をその現實性に於て意識することが、ヤスバースの所謂「哲學的信仰」だからである。Existenzとしての人間は Transzendenz によつて贈られた Gesektssein であると考え、それを自覺することによつて、自らの不完全性・自らの罪を意識することによつて人間は自由であるとするヤスバースの哲學は、甚だ宗教的である。此の哲學的信仰は、彼の哲學全體を覆つてゐる。唯、此の場合、超越者の persönlich な性格が稀薄である故に、それは當然理性に於ける Kommunikation への信とならざるを得ないであらう。實存の孤獨性は、ニーチェとは違つた形で救はれる。すべてを結びつけ統一せんとする理性、交渉

の意志——それがヤスバースをして、常に現實的な問題に眼を向けさせてゐる。人間は、現實に關與することによつて自己自身となる——これが哲學の課題である。それ故にヤスバースの言ふ如く「哲學の途は、勞多くして、而も永い」のである。(阿部)

彙報

眞宗學會

◇例会 十月二十一日 於研究室
「十住論」に於ける諸佛觀に就て

出席者 稻葉教授、武生講師、永田研究生、外學生七名。
上杉恩朗助手

◇秋期見學旅行 十一月十五日

東大寺—戒壇院—法華寺—法隆寺—中宮寺—藥師寺—唐招提寺

参加者 名畑教授、上杉助手、永田研究生、外學生四十名。

◇例会 十二月十六日 於會議室

宗祖自筆の「和讃」斷簡並びに「教行信證」延書本その他に就て

日野 環講師
出席者 名畑教授、稻葉教授、多屋教授、藤島教授、上杉助手、永田研究生、外學生二十名。

佛教學會

◇例会 十二月二日
「アレクサンドロスと佛教」
——ラモート氏の最近の業績について

出席者 山口・船橋・横超諸教授以下二十數名。
佐々木教悟講師

ハノイの遠東學院ビュルタンに載せられたE・ラモート教授の論文の紹介批評で、一同興味深く聴き、發表後の論議も活發であつた。

佛教史學會

◇十一月三日 藤島教授指導の下に正倉院見學、後、多武峯、飛鳥地方(岡寺、橘寺、川原寺等)史蹟踏査。

◇十一月十五日 大谷史學會主催の桂修學院兩離宮參觀に學會四回生参加。

◆佛教史學大會 十二月五日 於會議室
「法然上人門下の分流について」

藤島達朗教授

「清代大藏經の「異本」

文博 神田喜一郎氏

講演の後、講師を囲み、茶話會を開催し
活潑なる質疑應答の後、午後六時散會す

哲學倫理學會

◆例會 十月三十一日 於會議室

ハイデッガーに於ける「深淵」と

「時間性」について 加藤 隆生氏

◆一月三十日 關西倫理學會を本會で開
催、午前・午後に互つて研究會・討論會
を開き、終つて懇親會を催した。参加者
五十名。

社會學會

◆例會 十月二十九日

「村落に於ける宗教の社會的機能につ
いて」 豊島 講師

◆例會 十一月十六日

「社會病理學の研究方法」雀部 講師

◆例會 十二月十七日

「農村社會に於ける宗教集團について」

堀尾 副平

宗教學會

◆十二月十五日・十八日

天理教金光教を始め新興宗教をも含む
各宗教團體よりの質問書及び問合せ事項
に對し、會員各自の分擔に於て、合議の
上返答書を發送した。

獨文學會

◆例會 十二月七日 於應接室

「ファウストとさきぎりす」

岸 助 手

「オイホリオン」誌（一九五二年）所

載、デンマークの文獻學者カール・ロー
スの新しいファウスト解釋について岸助
手より紹介された。後、大庭教授の講評
あり。

出席者 大庭教授、岸助手、學生七名

國史學會

◆史蹟踏査 十一月二日

三品教授引率、山田助手以下學生二十
名参加。

正倉院・奈良西ノ京方面

まず、午前中正倉院展を參觀し、陳列
された天平文化の數々に目を輝かせ、
午後より、海龍王寺・法華寺を経て、藥
師寺・唐招提寺・喜光寺を巡歴し、夕闇
せまるころ解散。

◆昭和二十八年年度卒業論文中間發表會
十一月七日 發表者 石川・圓淨・大久
保・水戸・海岸・和田の諸君。

出席者 三品教授以下學生十五名。

◆昭和二十八年年度國史學會大會
十一月十四日 於第一教室

本願寺と大阪城址 山根徳太郎氏

綠日と開帳 平山敏次郎氏

眞宗三河教團の性格 山田 眞氏

なお、大會終了後茶話會、枳穀邸にて
懇親會を行つた。

國文學會

◆例會 十一月八日（月）十時 於研究室

近世初期の咄の形式 關山和夫

世阿彌研究

波多野國豊

なお午後、西本願寺見學。

◆見學 十月二十五日(土)二十六日(日)

吉野・高野方面

畝傍に途中下車して吉野へ、そして吉野見學後、高野にいつて宿泊。翌日、山内をくまなく見學。夜、大阪にて解散。

東洋史學會・支那學會

◆例會 十月二十四日 午後三時 於研究室

異民族國家と佛教 野上俊靜教授

◆見學 十月三十一日 午前十時

藥師寺・唐招提寺見學

◆道教學會・ユーラシア學會參加 同日
午後發表 道藏に於ける詞餘について

中田勇次郎教授

參加者 中田教授・研究室畑中・平野・
研究科藤林・學生西部・木島・藤井・數
谷・徳江。

●お願い

學報に御寄稿の際は原則として四百字
詰原稿用紙三十枚以内に、お願いしま
す。